

令和5年度 施策評価シート

1. ふじみ野市将来構想 from 2018 to 2030 における位置づけ

施策体系	分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～					
	施策	10 高齢福祉 ー高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めますー					
重点プロジェクト							
主管課		福祉部 高齢福祉課				評価責任者	増村 規子
関連課		協働推進課、文化・スポーツ振興課、環境課、社会教育課				評価日	令和6年6月1日
目標		高齢者が知識や経験を生かしながら、地域社会の中で趣味の活動やボランティア活動、就労などを通じて積極的な役割を果たし、生きがいを持って生き生きと健やかに暮らせる環境づくりを進めます。					
施策目標の実現に向けた取組		（１）趣味やボランティア、交流活動の促進 ○高齢者が地域で生きがいを持って暮らせるよう、スポーツ・レクリエーション・社会参加・世代間交流などを推進します。 ○高齢者がこれまで培ってきた知識や経験を様々な分野で生かし、ボランティア活動や地域づくりなどを通じて積極的に活動できる環境を整備します。 ○高齢者が安全に安心して活動できる拠点の確保を図ります。 ○高齢者の閉じこもりを防ぎ、積極的に地域で活動できるよう、移動手段の確保を図ります。 （２）就労機会の拡充 ○高齢者の就労について中心的役割を果たすシルバー人材センターと連携し、就労相談や就労機会の拡充に努めます。					

2. 施策指標と達成状況

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する指標です。

施策目標	指標 1	指標名	シルバー人材センター会員数					
		説明	高齢者が知識や経験を生かし地域社会の中で生きがいを持って暮らせるよう、シルバー人材センターと連携し、センターの周知を図った。令和5年度の新規入会者は232人、退会者は290人で退会者が上回った。					
		単位	人					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	2,200	2,260	2,320	2,380	2,440	2,500
		実績値	2,129	2,139	2,039	2,068	1,975	1,917
	指標 2	指標名	高齢者の施設利用者数（おおい老人福祉センター）					
		説明	令和5年5月より、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した影響もあり、利用者数は増加した。					
		単位	人					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000
		実績値	66,027	59,594	12,317	22,563	37,687	38,204
	指標 3	指標名	高齢者の施設利用者数（エコパ）					
		説明	令和5年5月より、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行した影響もあり、利用者数は増加した。（令和5年度実績より60歳以上の優待利用者数を実績とする）					
		単位	人					
	成果	年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000	160,000
		実績値	168,777	152,833	69,157	101,405	128,227	138,650
	指標 4	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						
	指標 5	指標名						
		説明						
		単位						
		年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
		目標値						
		実績値						

3. 施策への投入コスト

(単位：千円)

		平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
支出	事務事業費	404, 226	163, 022	295, 296	277, 434	143, 569	145, 569
	人件費	31, 666	23, 414	28, 428	22, 512	25, 115	27, 227
収入	特定財源	274, 932	47, 276	161, 496	165, 720	402	8, 614
	一般財源	160, 960	139, 160	162, 228	134, 226	168, 282	164, 182

4. 評価対象年度の施策実施内容

※網掛けの指標は前期重点プロジェクトに該当する取組です。

		実施内容	実施実績と効果	主な事務事業
取組①	第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の進捗管理及び第9期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画の策定	諮問機関である介護保険等運営審議会では第8期計画の進捗管理を行うとともに、調査結果を基に第9期計画を策定した。 (第8期計画 令和3年度～令和5年度) (第9期計画 令和6年度～令和8年度)	介護保険等運営審議会(年間8回)において、第8期計画の進捗管理及び第9期計画策定に係る審議を行い、第9期計画を策定した。	高齢者保健福祉計画推進事業
取組②	高齢者の就労機会の拡充	2市1町共同による補助金交付により、シルバー人材センターの健全運営を推進した。	①シルバー人材センター補助金として、ふじみ野市分10, 091, 860円を交付した。 ②シルバー人材センターの令和5年度契約額は1, 137, 045千円で、令和4年度1, 182, 453千円と比較して45, 408千円(3. 8%)の減となった。	シルバー人材センター支援事業
取組③	お出かけサポートタクシーの事業の実施	高齢者等の交通手段の確保及び福祉の増進や外出の機会の提供を行うために実施している。	お出かけサポートタクシーの台数を引き続き合計14台で運行した。 令和4年度延べ利用者数16, 440人と比較し、令和5年度延べ利用者数16, 075人で、365人の減となった。	長寿推進事業(一部)
取組④	地域密着型施設の整備	県から交付される地域密着型サービス等整備助成事業費等補助金を活用して整備する地域密着型サービスの整備に向けた準備を進めた。	グループホーム及び小規模多機能型居宅介護の令和5年度中の開設を予定していたが、物価高騰や資材の調達難、建設業界の人材不足等が影響し、予算を繰越し、令和6年度に開設することとなった。	高齢者福祉施設整備等支援事業
取組⑤	大井総合福祉センターの適正な運営	各種事業の実施により、高齢者の健康づくり及び社会参加を図るとともに、『ふじみんぴんしゃんホール』を拠点として介護予防に取り組んだ。	令和3年度に整備した『ふじみんぴんしゃんホール』での事業実施が定着し、介護予防、フレイル対策及び健康づくりの推進が図れた。また、市社会福祉協議会の移転に伴う、施設の利活用について検討を進めた。	大井総合福祉センター管理運営事業

5. 評価

評価	
指標の達成状況	第8期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に基づく事業が概ね順調に進められている。
おおむね順調	令和5年度も高齢者等の外出機会の確保を図るため、お出かけサポートタクシー14台体制(令和3年度の3台増車に続き、令和4年度に5台増車)とし、利用の促進を図った。
行政資源の活用	大井総合福祉センターでは、市内西側地域の介護予防の拠点として整備した『ふじみんぴんしゃんホール』での事業実施が定着し、延べ17, 427人(昼ぴん9, 016人、その他8, 411人)がホールを利用した。また、令和6年1月に社会福祉協議会大井支所が大井総合福祉センターから移転したことに伴い、空きスペースを含めた施設の利活用について検討を図った。
適切	
取組の有効性	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したこともあり、利用者数は増加傾向にあるが、さらなる利用者の獲得や健康づくり、介護予防の推進を図る必要がある。
おおむね有効	地域密着型施設の整備については、令和5年度中の開設はできなかったものの、令和6年4月30日に開設し、完了することができた。
施策の効果	
効果が得られている	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		高齢者保健福祉計画推進事業		前年度の方向性
				拡充
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
	施策	10 高齢福祉 ー高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めますー		
予算費目		一般会計 03民生費 01社会福祉費 03老人福祉費		
所管部課		福祉部 高齢福祉課	評価責任者	齊藤 晶子
事務事業期間		平成12年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		介護保険法（平成9年法律第123号）、老人福祉法（昭和38年法律第133号）		
事務事業の 内容	事務事業の 目的	老人福祉法及び介護保険法に定められた高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の策定を行う。 計画は3年を計画期間として策定する。また、計画の進捗管理を実施し、市の高齢者保健福祉及び介護保 険事業の計画的な運営を図る。		
	事務事業の 経緯	介護保険法により、市町村は3年を1期とする介護保険事業計画を高齢者保健福祉計画と一体のものとして 作成することとされている。本市では、作成年度に庁内検討委員会を設置し、諮問機関である介護保険等 運営審議会へ諮問し計画策定を行っている。		
	事務事業の 概要	3年ごとに高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定する。計画は介護保険等運営審議会を開催 し、原案を策定している。策定した計画は、審議会により進捗管理を実施している。介護保険等運営審議 会は、地域包括支援センター運営協議会も兼ね、地域密着型サービスの運営に関する審議も実施する。		
	令和5年度の 主な取組	令和5年度は、第8期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画（令和3年度～令和5年度）の最終の年度と なることから、第8期計画の進捗管理を行うとともに、第9期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画策 定（令和6年度～令和8年度）に向け、業者委託により令和4年度に実施したアンケート調査の結果を分析 した。また、庁内検討委員会（5回開催）及び介護保険等運営審議会（7回開催）の審議を経て、広く市民 の意見を聴取するため12月から1月にパブリック・コメントを実施し、第9期高齢者保健福祉計画及び介護 保険事業計画を策定した。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.70	0.70	0.70
		人件費	5,576	5,547	5,547
	再任用職員	従事人数(人)	0.65	0.65	0.65
		人件費	3,427	3,373	3,373
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			9,003	8,920	8,920
事業費	報酬※		313	669	456
	賃金※		0	0	0
	需用費		30	41	34
	委託料		3,740	3,190	0
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		20	66	43
支出合計			13,106	12,886	9,453
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		13,106	12,886	9,453
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			115	113	81

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	介護保険等運営審議会開催回数		
	説明	計画策定及び進捗管理を行う介護保険運営審議会等の開催回数を活動指標とする。計画的かつ効率的な審議会の運営に努め、目標は達成している。		
活動	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	4	7	4
	実績値	3	8	
指標 2	指標名	計画の進捗管理における達成割合		
	説明	計画の各事業の今後の方向性を踏まえ、計画に対する事業の進捗・事業効果等を総合的に検討し、毎年度自己評価を行っている。この自己評価のうち、「○計画どおりの事業展開を図ることができ、大きな成果があった。」「△計画に基づき事業を実施し、一定の成果を得ることができた。」の割合。		
成果	単位	%		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	100	100	100
	実績値	100	100	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	第8期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の進捗管理しながら、第9期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画の策定に向けて令和4年度に実施したアンケート調査の結果を分析・課題抽出を行った。また、庁内検討委員会（3回）、介護保険等運営審議会（8回）の会議を経て、12月から1月にかけてパブリック・コメントを実施し、第9期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画を策定した。 計画期間を令和6年度（2024年度）から令和8年度（2026年度）とする、第9期高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画では、計画期間中に団塊世代の全ての人が75歳以上となる2025年（令和7年）を迎える。さらにその先の団塊ジュニア世代が65歳となる2040年（令和22年）を見通すと、既に減少に転じている生産年齢人口の減少が加速する中で、高齢者人口がピークを迎えることが見込まれる。そこで、第8期計画の基本理念である「みんなで支え合い いつまでも健やかに暮らせるまち」を継承し、いつまでも健康で自立した生活を継続し、快適にいきいきと暮らせるようなまちづくりや、誰もが住み慣れた地域で支え合いながら、安心して医療と介護が提供され享受できるまちづくりの実現に向け策定した。また、地域共生社会の実現の推進及び共生社会の実現を推進するための認知症基本法の制定を受け、重層的支援体制の推進や認知症施策の充実について計画に記載した。
--------------	--

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	地域包括ケアシステムを推進するに当たっては、介護保険事業計画に係るPDCAサイクルを活用し、地域マネジメントを実行していくことが重要とされているため、「介護保険事業計画の進捗管理の手引き」を参考にして進捗状況をしっかりと管理していく必要がある。「見える化」システムを活用した地域分析を行い、地域の実績や課題分析を行う。また、国から提供されている点検ツールを活用して地域包括ケアシステム構築での課題の棚卸しや計画の振り返りを行う。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		シルバー人材センター支援事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
	施策	10 高齢福祉 一高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めますー		
予算費目		一般会計 03民生費 01社会福祉費 03老人福祉費		
所管部課		福祉部 高齢福祉課	評価責任者	齊藤 晶子
事務事業期間		昭和62年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		高年齢者等の雇用の安定等に関する法律（昭和46年法律第68号） ふじみ野市シルバー人材センター補助金交付要綱		
事務事業の内容	事務事業の目的	高齢者の就労機会の拡大、健康で生きがいのある生活の実現などを旨とする趣旨のもと設置されたシルバー人材センターに対し、補助金を支出しその活動を支援する。		
	事務事業の経緯	平成28年4月にふじみ野市・富士見市・三芳町のシルバー人材センターが合併し、（公社）入間東部シルバー人材センターが発足した。補助金については、協定により基本割額（国基準）と人口割額の合算額を市町それぞれの補助額とした。		
	事務事業の概要	・ 事業内容の審査及び補助金の支出 ・ 法人の事業運営の確認 ・ 法人の運営等に関する連絡調整等及び活動の支援		
	令和5年度の主な取組	会員拡大を図るため、入間東部シルバー人材センターとして啓発事業を開催した。また、パンフレットの作成、配布等を通じたPR活動を展開した。 市では、入間東部シルバー人材センターへの補助金交付を行い、これら啓発事業を支援した。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人 件 費	正規職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	797	793	793
	再任用職員	従事人数(人)	0.07	0.07	0.07
		人件費	369	364	364
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
人件費計			1,166	1,157	1,157
事 業 費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		0	0	0
	委託料		0	0	0
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		10,099	10,092	10,093
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		4	4	5
支出合計			11,269	11,253	11,255
財 源 内 訳	特定 財 源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		11,269	11,253	11,255
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			99	99	96

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	契約金額		
	説明	シルバー人材センターの受注実績である契約金額を成果指標とする。 契約金額を増やすための啓発事業として、シルバー人材センター主催のコンサート及び富士見市・三芳町との共催による講演会を実施している。また、コロナ禍では新聞折り込みチラシや産業まつりへ参加している。		
成果	単位	千円		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	1,240,000	1,153,000	1,164,000
	実績値	1,182,453	1,137,045	
指標 2	指標名	シルバー人材センター会員数		
	説明	高齢者が就労を通じて生きがいや健やかに暮らせる環境づくりを推進する指標（年度末会員数）。 会員数を増やすための啓発事業として、シルバー人材センター主催のコンサートや講演会などを実施。また、会員勧奨のためシルバー人材センターでチラシを作成し、公共施設で配布。また、初年度会費免除のキャンペーンを実施する。（前期基本計画の指標）		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	2,350	2,095	2,120
	実績値	1,975	1,917	
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の実施内容・効果	高齢者等の雇用の安定等に関する法律の改正により、個々の労働者の多様な特性やニーズを踏まえ、70歳までの就業機会の確保について、多様な選択肢を法制度上整え、事業主としていずれかの措置を制度化する努力義務を設けることとされた。 シルバー人材センターの会員の平均年齢も75.7歳と前年度より0.4歳高くなっている。そのような中でも就業率の向上に努め、地域の高齢者の社会参加による生きがいを充実し、地域社会の福祉と活性化に寄与するため、臨時的かつ短期的な就業又はその他軽易な就業を希望する高齢者に働く場を提供している。 持続可能な事業運営、組織の継続的な発展のため、今後の事業展開の基本的方向を示した「中期計画」を策定し、令和5年度からスタートした。 ・ふじみ野市・富士見市・三芳町共同による補助金交付及び事業支援の実施により、シルバー人材センターの健全運営とともに、シルバー世代への就労支援を図ることができた。 ・会員数及び契約数を増やすため、産業まつりへの参加、市本庁舎ギャラリーでの会員による作品展示やグランドゴルフ大会など行事の実施やチラシの配布などを行った。 ・契約金額は、新型コロナウイルス感染症の影響があり、受注が減り、減少となった。 ・令和6年1月からWEBによる会員登録及び登録に係る説明会を行った。 ・会員登録勧奨のためシルバー人材センターでチラシを作成し、公共施設等で配布を行った。
--------------	---

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	高齢者の生きがい対策や就労機会の提供の観点から、引き続きシルバー人材センターへの支援を行う。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		長寿推進事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
	施策	10 高齢福祉 ー高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めますー		
予算費目		一般会計 03民生費 01社会福祉費 03老人福祉費		
所管部課		福祉部 高齢福祉課	評価責任者	齊藤 晶子
事務事業期間		昭和33年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市敬老祝金支給条例 ふじみ野市老人クラブ連合会事業補助金交付要綱 ふじみ野市単位老人クラブ事業補助金交付要綱 ふじみ野市お出かけサポートタクシー事業実施要綱 外		
事務事業の内容	事務事業の 目的	高齢者が健康で生きがいのある生活を送れるよう、施設の管理運営、団体の支援等を行う。また、敬老の意を表し、祝金の支給をもって長寿を祝福する。さらに、高齢者の外出の機会を提供するためお出かけサポートタクシー事業を実施する。		
	事務事業の 経緯	老人クラブについては、本市(合併前)では昭和40年度より補助金支出による財政支援等を実施。敬老祝金は、旧上福岡市は昭和33年、旧大井町は昭和39年に事業開始となっている。お出かけサポートタクシー事業は平成28年4月に開始した。なお、ふれあいプラザかみふくおかは令和2年11月30日で閉館となった。		
	事務事業の 概要	本事業に位置づけている高齢者の生きがい対策は、主として次のとおりである。 ・ゲートボール場の管理運営及び利用者団体の育成。 ・老人クラブの育成、活動支援のため、補助金を交付し財政的援助を行うとともに、必要に応じ助言など支援を実施。 ・敬老祝金の支給。 ・お出かけサポートタクシー事業の実施（令和2年度から運行方法変更：運行範囲拡大（乗降場所自由）。利用回数：補助に上限）。		
	令和5年度の 主な取組	①老人クラブ（いきいきクラブ）のクラブ数や会員数の減少が続いているため、老人クラブ連合会の組織体制や運営方法を見直した。 ②上福岡ゲートボール場（駒西）など東地域のゲートボール場4か所について、日常の管理とともに今後の有効活用の方策を関係課と協議を行った。 ③お出かけサポートタクシーは、令和4年度から運行台数を5台増車し14台で実施しているが、令和5年度も引き続き14台の運行で実施した。 ④敬老祝金については、口座振込みにより年2回対象者に支給した。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	1.10	1.10	1.10
		人件費	8,762	8,716	8,716
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	1.00	1.00	1.00
		人件費	0	2,368	3,416
人件費計			8,762	11,084	12,132
事業費	報酬※		1,215	1,748	2,096
	賃金※		0	0	0
	需用費		124	677	441
	委託料		778	382	452
	使用料及び賃借料		634	1,147	1,676
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		13,671	13,409	22,706
	扶助費		0	0	0
その他事業費※			19,238	23,452	30,705
支出合計			44,422	49,531	66,792
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	402	378	454
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	17
	一般財源		44,020	49,153	66,321
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			386	431	565

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	老人クラブ会員数		
	説明	高齢者施設等を拠点として活動する老人クラブ会員数を成果指標とする。 ※いきいきクラブ会員募集のチラシ配布等の周知活動を行っているが、入会する高齢者が少なく、会員の高齢化が進み、役員の担い手不足から連合会を脱退するクラブもあり減少している。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	1,300	1,050	1,050
	実績値	1,103	971	
指標 2	指標名	敬老祝金支給者数		
	説明	敬老祝金を支給した長寿の方の人数を成果指標とする。振り込みによる支給を行っている。		
成果	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	1,700	2,050	2,530
	実績値	1,437	1,897	
指標 3	指標名	お出かけサポートタクシー延べ利用回数		
	説明	高齢者が外出する際の交通手段を確保し、外出機会を促進することで閉じこもりの防止・介護予防を図ることを目的としているため、年度末の登録者数を指標としたが、令和5年度より延べ利用回数に変更した。		
成果	単位	回		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	2,200	17,040	17,640
	実績値	16,440	16,075	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【ゲートボール場】 スポーツを通じて、高齢者が健康で生きがいのある生活を送れるよう支援している。高齢福祉課が管理しているゲートボール場は、上福岡ゲートボール場をはじめ、4か所ある。
	【老人クラブ】 老後の生活を豊かなものにしていくため、概ね60歳以上の方でクラブをつくり、趣味・教養・娯楽などの交流や社会活動を行う老人クラブに対し支援を行っている。また、地域ごとに市と共催で講演会等を開催するなどし、地域での交流を深めている(令和5年度末現在 23団体971人が加入)。 【敬老祝金】 市内に引き続き2年以上居住しており、対象年齢になった方に敬老祝金を支給。支給対象者は、喜寿・米寿・白寿 【お出かけサポートタクシー】 タクシーの利用料金の一部を助成し、高齢者等の交通手段の確保及び福祉の増進や外出の機会を提供している。市内に住所を有し65歳以上で申請により登録証の交付を受けた方。新型コロナウイルス感染症の感染症法上の取扱いが5類に移行したあとの外出機会確保のため、引き続き運行タクシーを14台体制としている。また、更なる制度の充実のため、補助金額の引き上げを検討した。利用者の利便性を向上するため、令和5年12月1日から利用登録申請時に電子申請を利用できるようにした。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	今後の高齢社会の進行を踏まえ、事業内容については検討していく必要があるが、長寿推進のための事業は必要なものと考えている。一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が増加する中、生きがいを持って生活し地域において活動していくことは今後ますます重要なものとなる。必要に応じた見直しを行いながら、事業の継続をしていくことが重要である。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		高齢者福祉施設整備等支援事業	前年度の方向性 拡充	
重点プロジェクト				
施策 体系	分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
	施策	10 高齢福祉 ー高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めますー		
予算費目		一般会計 03民生費 01社会福祉費 03老人福祉費		
所管部課		福祉部 高齢福祉課	評価責任者	齊藤 晶子
事務事業期間		平成28年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		ふじみ野市高齢者福祉施設整備補助金交付要綱、ふじみ野市施設開設準備経費助成特別対策事業費補助金交付要綱、ふじみ野市介護保険事業計画		
事務事業の内容	事務事業の 目的	高齢者福祉施設を介護保険事業計画に基づき計画的に整備し、高齢者に良質で安定した介護サービスを提供するとともに、市内に高齢者福祉施設を整備する法人に対して整備費等に係る負担の軽減を図る。		
	事務事業の 経緯	国の三位一体改革に伴う補助金制度の見直しにより従来の国・県による補助制度が廃止され、平成17年度より「地域介護・福祉空間整備等交付金」が創設された。なお、平成28年度に同交付金のメニューが見直しされ、新たに「埼玉県地域密着型サービス等整備助成事業費等補助金交付要綱」が創設された。		
	事務事業の 概要	国・県から交付される補助金を活用して、市内に地域密着型の高齢者福祉施設を整備する法人に対して整備費等の一部を助成する補助金を交付する。施設整備費に係る補助金及び開設準備経費に係る補助金からなる。		
	令和5年度の 主な取組	第8期介護保険事業計画に基づき、令和4年度に小規模多機能型居宅介護及びグループホームを一体的に整備する法人を令和3年度に公募により選定し、令和4年度中の開設を目指し事務を進めていたが、予想を上回る物価高騰や資材の調達難、建設業界の人材不足が影響し、令和4年度中の開設が困難となったため、第8期計画期間の最終年度である令和5年度事業として実施することとなった。令和5年度は、当該法人との調整・進捗管理を行い、年度内の開設に向けて事務を進めた。		

2. 事務事業費・人件費

(単位：千円)

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人 件 費	正規職員	従事人数(人)	0.31	0.30	0.30
		人件費	2,470	2,377	2,377
	再任用職員	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	人件費計		2,470	2,377	2,377
事 業 費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		85	210	0
	委託料		0	0	0
	使用料及び賃借料		0	0	6
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		23,830	23,372	82
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		0	0	300
支出合計			26,385	25,959	2,765
財 源 内 訳	特定 財 源	国庫支出金	0	6,091	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	0	0
		その他	0	0	0
	一般財源		26,385	19,868	2,765
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			231	174	24

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	グループホームの床数		
	説明	グループホームの入居（入所）可能となる人数を把握する指標である。		
成果	単位	床		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	99	99	99
	実績値	81	81	
指標 2	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			
指標 3	指標名			
	説明			
	単位			
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値			
	実績値			

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【高齢者福祉施設整備補助金】 ・事業概要 高齢者福祉施設の整備費等の一部を助成することで、高齢者施設等の整備を促進し、高齢者福祉の向上を図ることを目的とする。 ・対象事業所種別 認知症高齢者グループホーム、地域密着型介護老人福祉施設等 ・補助額 埼玉県定める基準額を上限として補助を行う。 【施設開設準備経費助成特別対策事業費補助金】 ・事業概要 高齢者福祉施設の開設に係る準備経費の一部を助成することで、高齢者施設等の整備を促進し、高齢者福祉の向上を図ることを目的とする。 ・対象事業所種別 認知症高齢者グループホーム、地域密着型介護老人福祉施設等 ・補助額 埼玉県定める基準額を上限として補助を行う。 【令和5年度内容】 令和5年度中に整備予定であった施設については、建築部材の搬入遅延等により、年度内に建設が完了せず、令和6年4月に開設予定となった。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	第9期介護保険事業計画（令和6年度～令和8年度）に基づき、市内に高齢者福祉施設を整備する法人に対して、県の補助金を活用し補助を実施する。
中長期的方向性	
継続	

令和5年度事務事業評価シート

1. 事務事業の概要

事務事業名		大井総合福祉センター管理運営事業		前年度の方向性
				拡充
重点プロジェクト				
施策体系	分野	03 子育て・福祉 ～みんなで支え合う思いやりのあるまち～		
	施策	10 高齢福祉 ー高齢者がいきいきと暮らせる地域づくりを進めますー		
予算費目		一般会計 03民生費 01社会福祉費 04総合福祉センター費		
所管部課		福祉部 高齢福祉課	評価責任者	齊藤 晶子
事務事業期間		平成14年度～	評価日	令和6年6月1日
個別計画 根拠法令・条例等		老人福祉法（昭和38年法律第133号） ふじみ野市立大井総合福祉センター条例		
事務事業の内容	事務事業の目的	高齢者及び障がい者の自立の促進及び健康の増進を図るとともに、市民の相互交流と福祉の向上に資することを目的とする。		
	事務事業の経緯	大井総合福祉センターは平成14年度に開設し、高齢者及び障がい者の方に対して、地域福祉の拠点的作用を持つ施設として、常に良好な環境を保つよう維持管理及び運営を行っている。平成24年4月からは事業を効果的かつ効率的に行うため、指定管理者制度を導入している。		
	事務事業の概要	・協定の作成及び指定管理者選定事務（5年ごと） ・協定書に基づき指定管理者が実施する施設管理・健康相談・自主事業などの進捗管理 ・危機管理体制の整備及び対応 ・個別施設計画に基づいた維持管理のための修繕・設備の更新 ・モニタリングの実施		
	令和5年度の主な取組	・令和4年3月に整備したふじみんびんしゃんホールを活用した各種介護予防事業を実施した。 ・令和6年1月の市社会福祉協議会の移転に伴う施設の利活用について検討を行った。その結果、高齢者あんしん相談センターつるがまいの移転、障がい者等フリースペースの新設及びeスポーツの導入などの必要経費について令和6年度当初予算に計上した。		

2. 事務事業費・人件費

（単位：千円）

【支出】			令和4年度 実績	令和5年度 実績	令和6年度 当初予算
人件費	正規職員	従事人数(人)	0.40	0.40	0.40
		人件費	3,186	3,170	3,170
	再任用職員	従事人数(人)	0.10	0.10	0.10
		人件費	528	519	519
	会計年度任用職員※	従事人数(人)	0.00	0.00	0.00
		人件費	0	0	0
	人件費計		3,714	3,689	3,689
事業費	報酬※		0	0	0
	賃金※		0	0	0
	需用費		3,762	384	1,554
	委託料		65,986	69,042	68,267
	使用料及び賃借料		0	0	0
	工事請負費		0	0	0
	負担金、補助及び交付金		0	0	0
	扶助費		0	0	0
	その他事業費※		40	53	736
支出合計			73,502	73,168	74,246
財源内訳	特定財源	国庫支出金	0	0	0
		県支出金	0	0	0
		使用料・手数料	0	0	0
		分担金・負担金	0	0	0
		地方債	0	0	0
		基金	0	2,145	593
		その他	0	0	0
	一般財源		73,502	71,023	73,653
市民1人あたりの負担コスト(単位：円)			644	622	628

※報酬、賃金、その他事業費には、会計年度任用職員の人件費も含まれています。

※千円未満を四捨五入しているため、合計が合わない箇所があります。

3. 事務事業の指標と実績

指標 1	指標名	開館日数		
	説明	サービス提供量の開館日数を活動指標とする。		
活動	単位	日		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	293	294	294
	実績値	294	294	
指標 2	指標名	おおい老人福祉センター新規利用登録者数		
	説明	おおい老人福祉センターについては、より広く高齢者に利用されることをめざし事業展開を行うことから、新規利用登録者数を指標とする。		
活動	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	165	195	200
	実績値	190	215	
指標 3	指標名	介護予防講座・教室参加者数		
	説明	令和2年度から、施設の指定管理事業に介護予防事業として講座・教室の実施が盛り込まれたことから、この事業への参加実人数を評価指標とする。		
活動	単位	人		
	年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
	目標値	900	2,200	2,300
	実績値	2,182	5,066	

4. 事務事業の実施内容・効果

事務事業の 実施内容・効果	【大井総合福祉センターの概要】 大井総合福祉センターは、高齢者及び障がい者の自立の促進及び健康の増進を図るとともに、市民の相互交流と福祉の向上に資するため、平成14年度に複合施設として開館した。 ・高齢者施設として、入浴施設や運動・交流等できる『おおい老人福祉センター』を2階部分に設置している(高齢福祉課所管)。 ・障がい者施設として、1階部分に『大井デイケアセンター』を設置し、入間東部福祉会が運営(障がい福祉課所管)。また、3階部分には、『障がい者総合相談支援センター(りあん)』を一部委託で設置している(障がい福祉課所管)。 ・平成28年度からNPO法人により、『市民大学ふじみ野』をセンター3階に開校し高齢者を含む多くの市民のまちづくりを考える場として活用している(協働推進課所管)。 ・4階部分には、社会福祉協議会大井支所が入居(令和6年1月13日退去)。 ・その他として、多目的ホールや会議室(3室)を有し、高齢者・障がい者団体等に貸出し、活動の場として支援を行っている。 【おおい老人福祉センターについて】 利用対象者：60歳以上の方及び障害者手帳の交付を受けている方等(未就学児は不可) 利用料：市内在住の60歳以上の方及び障害者手帳の交付を受けている方は無料。市内在住の60歳未満の方は300円、市外の方は600円 ・利用者数 令和5年度(男性)19,804人、(女性)18,400人 (合計) 38,204人 ※平成14年度から、受付・管理業務をシルバー人材センターに委託 【ふじみんぴんしゃんホールについて】 昼びんには、延べ9,016人が参加した。また、ぴんしゃんホール全体としては延べ17,427人が利用した。

5. 今後の方向性

来年度の方向性	理由
継続	高齢者・障がい者の自立の促進及び健康の増進を図るとともに、市民の相互交流と福祉の向上に資することを目的とした施設であり、高齢福祉施設及び障がい福祉課所管施設、協働推進課所管施設、社会福祉協議会などの複合施設として有効活用が図られている。老人福祉センター事業については、イベント等の充実を図り、新規利用者の獲得に努めている。総合福祉センター事業としては介護予防や栄養改善に関する事業を指定管理者の事業として開催もしている。あわせて、利用者が安心かつ安全に過ごせるよう、優先順位を定め計画的に施設管理(保守点、清掃、修繕)を行っていく。令和4年度からふじみんぴんしゃんホールが開設し、お屋にぴんしゃん体操を実施する通称昼びんの充実により、利用者も徐々に増えつつある。これらの現状を踏まえ、大井総合福祉センター全体の事業を継続していく。
中長期的方向性	
継続	